

越後平野・弁天潟にチクゴスズメノヒエが生育

渡辺 朝一

チクゴスズメノヒエ *Paspalum distichum* var. *indutum* は、イネ科スズメノヒエ属に属する外来の水生植物である。新潟県内では、信濃川沿いや鳥屋野潟、福島潟などで記録されている。(笹川1989、刈屋1992など)。筆者は従来の生育が記録されていなかった新潟県北蒲原郡聖籠町の弁天潟において本種の生育を確認したので報告する。

弁天潟は(N37° 58', S139° 16')は、新潟砂丘の北部に位置し、周囲の砂丘から湧出した地下水が滞水した開水面積約2haの池沼である(小林1989)。笹川(1989)によって本種の生育が確認された福島潟からは北に約5kmの距離にある。弁天潟野植物相に関しては石沢(1989)が精査しているが、この時本種は記録されていない。

筆者が、2008年12月14日に弁天潟を訪れ、水鳥を観察していた際に、潟の西側から流下し、排水口につながるS字型の水路にオオハクチョウ *Cygnus cygnus* 数羽おり、水生植物の穂を引っ張っているところを観察した。筆者は、新潟市の鳥屋野型でコハクチョウ *C. columbianus* がチクゴスズメノヒエの穂を採食しているところを観察した経験があり(渡辺2008)、弁天潟から流下する水路にみられるこの植物も本種ではないかと考えたが、枯死が進んでいたため種の断定ができなかった。その後7月19日と8月22日に同地を再訪し、この種が、水路のほぼ全域に繁茂しているところを確認した(図1、図2、図3)。水面にマット状に繁茂して覆う特徴から本種であると考え、更にサンプルを新潟県立長岡高等学校の笹川通博教諭にお送りし、チクゴノスズメノヒエであることをご確認をいただいた。また、笹川氏の記録では、福島潟で採取された本種の葉鞘の毛は、同時期に発見された新潟市清五郎潟産の本種のものより顕著でなかったという(笹川1989)。今回笹川氏には、弁天潟産のチクゴノスズメノヒエに関して、葉鞘の毛が福島潟産のように少なめであるが清五郎潟産のように顕著であるかの確認もいただいた。その結果は、清五郎潟産のものと同様に葉鞘の毛はかなり顕著であった。

2009年の時点で、弁天潟から流下する水路全域に繁茂している状態であるので、弁天潟に移入してから数年は経過しているものと思われる。その散布者としてはやはり水鳥が考えられる。

チクゴノスズメノヒエに関して情報をいただいた神戸大学理学部の角野康郎教授、サンプルの識別や葉鞘の毛の多寡について判別をいただいた新潟県長岡高校の笹川通博教諭に感謝致します。

引用文献

石沢進, 1989. 4弁天池. 2植物. 湖沼自然環境実態調査報告書: 72-74. 新潟県環境保健部環境保全課. 新潟市

刈屋寿, 1992. チクゴノスズメノヒエ. 新潟県植物分布図集第13集: 61-62

小林巖雄, 1989. 4弁天池. 1地形. 湖沼自然環境実態調査報告書: 71. 新潟県環境保健部環境保全課, 新潟市

笹川通博, 1989. 新潟県におけるチクゴノスズメノヒエの分布. 水草研会報36: 9-10

渡辺朝一, 2008. 新潟市鳥屋野潟で観察されたコハクチョウによるキシユウスズメノヒエ穂への採食行動. 新潟県生物教育研究会誌43: 35-36

(*310-0032 水戸市元山町2-2-33-202)



図2 水路を覆うチクゴスズメノヒエ

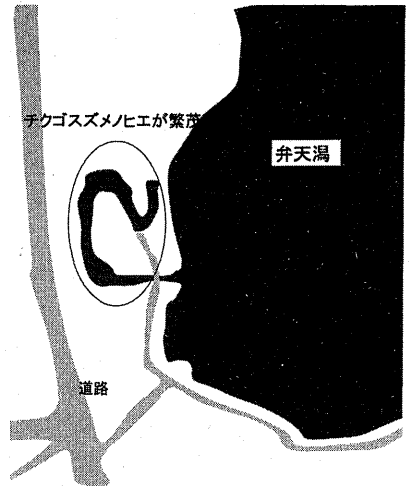


図1 弁天潟におけるチクゴスズメノヒエの生育域

20m

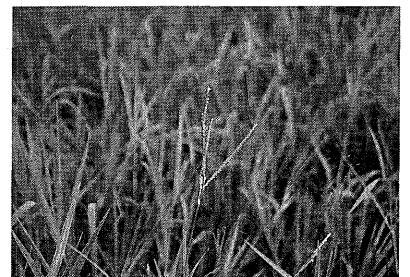


図3 チクゴスズメノヒエの花序